

## 5.具体的な防災・減災対策

専門家による防災講演会や住民のワークショップへの参加により、地域での防災・減災への取組みとして、発災前・発災時等と、自助(自分・家族での取組み)・共助(地域での連携の取組み)の取組みをワークショップにより、住民主体で検討し、発災前と発災後に、さらに自助と共助と公助・共助に区分して整理した。

### ■風水害

	項 目	自 助 (家族等)	共 助 (近所)	公助・共助 (町全体)
事	1.人の状況把握	家族での話し合い、 ○家族の安全 高齢者多い。 車椅子の高齢者多い。	近所の声掛け、○近所の安全 単身者や高齢者が多い。顔見知りが多い 日頃から近所の人々の安全を把握 地域住民の情報を知る	一人暮らし者名簿作成、人数把握 地域で助け合う 近所がコミュニケーションが 取れている。各町会が把握している
	2.建物の状況把握	どこまで浸水するか把握 建物が古い木造。 2階の部屋レイアウト	逃げ場所設定 高層ビルと連絡を取る	一人暮らし者名簿作成 古い建物が多い。 高いマンションが多い 淡路駅は長期的には強み 普段から高い建物を探す
	3.道路等の状況把握	マンホール調べ、 ○マンホールの打上に注意、 道路が狭い 道路に植木等を置かず広く使う 広い道路をできるだけ通行	逃げ場所設定、 ○マンホール注意 道路が狭い。 ○避難通路の状況把握 日頃よりの駐禁車の把握。 青バト巡回 道路が狭い。 避難進路を路面に表示 道路面に方向指示	道路を広く、物を置かない。
前	4.避難先の状況把握	家族での話し合い、 ○高いところ 近傍に避難所、近くの高いビル どこに避難するか話し合い。 常に高い建物を覚えておく 避難先で避難場所は	避難先の収容力、 ○近所の高い建物に避難、学校等 常に近所と仲良く話し合いを、 学校。地域、町会で話し合い ○日頃から話し合いの場を 避難先を書き込む	避難先の大きな目印 ○公営の高層住宅で受け入れ 学校、公園表示、空き地、駐車場 ○高所住宅先と連絡を密に ○学生と一緒に訓練 ○一時避難先を決めておく ○企業と連携
	5.避難計画	安否確認シール、家族等で話し合い 淡路中学校へ行く、近くの広場 家族と話し合う。隣の高い建物確認 台所に掲示。自宅待機(単身者) 指定避難場所へ 避難場所を決めておくこと	各家に避難シール、○町内で年2回避難訓練 回覧板。会長のとるべき行動は。そのための事前学習 指定避難場所へ。2人で行動すること。近所の人と一緒に行動 避難シールを用意	避難先への誘導コース目印 学校への避難経路(河川埋め立て道路)。広報 役所で避難ビルの確保交渉を 学生との訓練
対	6.防災・連絡体制の検討	電池等身を守るもの、携帯は使えるか。 ○常に話し合う機会を持つ 家の電話、日頃から決めておく	各家に避難シール、○町内で年2回避難訓練、防災リーダー設置 回覧板。会長のとるべき行動は。そのための事前学習 常に話し合う機会を持つ 避難場所に放送する 防災本部をつくる	地域で話し合う 防災リーダー設置 企業との連絡を密に
	7.事前準備物資・点検	電池等身を守るもの、携帯は使えるか、備蓄は何日分？ 緊急物資を常備、点検をする。 ボート。ラジオなどの準備。 半年に1回点検、 飲食物の確保。備蓄食品、 防災グッズ・リュック定期点検。 検討する。啓発を行う いつでも持ち出せるよう点検 普段から安全用具を準備する	スコップ・ジャッキ等、ゴムボートの所在 ○自転車の止め方。自治会で備蓄 自治会の倉庫。実施済み 啓発を行う	年に何回か点検が必要 舟、発電機、浮き袋 実施済み(年数回)
策	8.訓練・広報等	ありがとうございます。 家族のあり方 訓練・広報をたびたび行う	広報、回覧物。実施済み 防災訓練を増やす	防災訓練は年2回必要、広報(市・区発行)

	項 目	自 助 (家族等)	共 助 (近所)	公助・共助 (町全体)
発	1.安全確保	家族人数確認 自分を第一に考える	狭い道の自転車 地域の安全を点検 避難指導は誰がするか決めて おく	避難経路の明確化 神崎川が火災の時には使用可 能
	2.避難行動	あわてない、状況把握を 避難道路は臨機応変に	近所で奨励する建物。 団体で行動する。声掛けする 危険個所の事前把握	マンホール等危険箇所、 大きな建物申請
災	3.避難先	自社ビル、家族で話し合いを、 近所の高いビルに避難。 指定場所へ 3階建より高いビルへ、 高いマンションへ。 家族で決めておく。 (小学校・中学校)高所へ。 公園	町会で決めておく。公園 一時避難所を決めておく 淡路小学校、淡路中学校	◎避難できるところ事前の登 録、高いビル 地域で決めておく 高い建物に行く
	4.安否確認等連絡	留守宅把握、携帯 各家庭ごとに表示	◎独居老人の安否（高齢者が多 い）	
後	5.災害情報	ラジオ、携帯、アイホン等。 連絡先掲示 ラジオ等放送設備設置。 伝達方法	◎災害情報の連絡、ラジオ活用 一時避難所に登録書き込む	安否確認のシールを貼る
	6.救援・支援	支援・救援方法の検討	地区体制の確立	救護設備
対	7.避難所開設・運営	近くのビル	近くのビル 地区体制の確立	コンビニ等協力。トイレ。 ◎淡路地区活動協議会、防犯 防災部会
	8.物資・情報管理運 営	独自で緊急用物資を準備 ラジオなどの用意。 備蓄品の確保	地区体制の確立	コンビニ等協力
策			共に助け合う	

■地震災害

	項 目	自 助 (家族等)	共 助 (近所)	公助・共助 (町全体)
事	1.人の状況把握	家族解決確認、 ○家族の安全。 ベットの避難	隣近所の状況を見る、近所の 安全、単身高齢者が多い。把 握済み、状況確認(調査)	全体であれば動く、 老人70%名簿作成 各町会で把握
	2.建物の状況把握	自分の建物の確認、 家具の転倒防止 木造建築。1室でも耐震化する 屋内の整理、転倒防止対策	近所の建物の確認 前にアーケードがある 状況確認(調査)	数件新しい建物がある ◎避難表示の拡大と設置
	3.道路等の状況把握	自分の出られる道の点検、 道路損壊の時、狭い道路の被害 確認、広い道路有り。 ◎避難路の状況把握	事前に危険なところを点検 ◎避難通路の状況把握。 道路が狭い 状況確認(調査)	危険な道路を事前に把握
前	4.避難先の状況把握	ラジオ、連絡を取り合う 避難先を決めておく	事前に危険なところを点検、 中心者が把握して全員に連絡 町会で決める。公園・学校。 状況確認(調査)	危険な道路を事前に把握、風呂 屋なので人数の確保を図る 地域で話し合い、決める。 公園・学校
	5.避難計画	避難場所までの確認 建物のドアを開けておく。 自宅待機、常に避難路を把握	現在の表示をもっと大きく、 避難路の表示が不足 状況確認(調査)	(心配です)
対	6.防災・連絡体制の 検討	中心者が連絡をとる	無線の配布。 ◎防災訓練が必要。 防災リーダー設置 ◎防災本部の設置	無線の配布。 防災リーダー設置
	7.事前準備物資・点 検	事前物資の確認・点検 懐中電灯、ラジオ、消火器、の こぎり、ハンマー。3日分の食 料備蓄。備蓄少ない	必要備品の準備(簡易トイレ、 炊き出し器具等)。 備蓄少ない 実施済み	年に数回点検必要 実施(年数回)
策	8.訓練・広報等		年2回避難訓練を。炊き出し 等練習を。実施済み。◎計画 的に実施	実施(年数回)
発	1.安全確保	事前に準備、家財の安全。ドア を開ける。まず、一番に広い道 路へ、声掛け机の下、トイレ、 風呂で身を守る	声掛けをする ◎安全確保器具の配布	避難経路の明確化
	2.避難行動	一か所ではなく二か所以上に、 責任者に従って行動。まず電気 ガスを止める。 家族そろって。声掛けする 自宅待機	道路の確保をみんなでする	◎誘導をできるだけ能率に 広い道路を利用する 団体での避難。避難路が簡単
災	3.避難先	小学校が避難先、避難先の道の りを知っておく 状況に応じて避難先を判断 家族で決めておく。公園。自宅 避難指定場所へ。 避難先を常に話し合う	公園・学校 近所の人と避難先を話し合う	◎人毎に登録してほしい 避難表示の拡大 学校が近い。 学校・公園・空き地
	4.安否確認等連絡	行き先を決めておく(2か所く らい)、中心者として連絡を心 がける 携帯等で確認	◎独居者の安否確認 各家庭の安否確認器具等の支 給	
後	5.災害情報	携帯・ラジオ・テレビ等で情報 確認、建物倒壊場所確認 パソコン。指定避難所にラジオ 等設備を	◎指定避難場所に放送設備の 設置ラジオ活用	
	6.救援・支援		防災マップ(町会別) 救護・救援時の連絡先	赤ちゃんのおむつ、ミルク
対	7.避難所開設・運営	自分の家で対応する		公園も増やす、ブランコの利用 育児中の授乳室がほしい。シャ ワーコーナーを ◎淡路地区活動協議会、防犯・ 防災部会
	8.物資・情報管理運 営	緊急物資の常備、 トラックを提供 必要最小限の確保を		簡易トイレの設置 赤ちゃんのミルク、おむつ等 ◎淡路地区活動協議会、防犯・ 防災部会 ◎役所を中心に運営する